

第6回東京リハ栄養ネットワーク研究会は、令和7年11月16日（日）に東京女子医科大学病院第一病棟1階リハビリテーション室にて開催された。本研究会は、地域・施設を越えた多職種連携と実践的学習を目的として行われ、今回は世話人を含めて45名が参加した。

当日は三部構成でプログラムが進行した。第1部の症例検討では、上尾中央総合病院リハビリテーション技術科・言語聴覚士の加治屋敬子先生より、「回復期脳卒中患者における認知症・嚥下障害を伴う症例へのリハビリテーション栄養介入」が提示された。認知機能低下と摂食嚥下障害を併存する症例に対し、リハビリテーション負荷を考慮した栄養介入の工夫について、スモールグループディスカッション形式で活発な議論が行われた。年齢、画像所見、重症度から機能予後を見極め、適切なゴール設定を共有することの重要性が示された。

第2部のミニレクチャーでは、ふれあい歯科ごとうの訪問管理栄養士である稲山未来先生が、「地域リハ栄養を支える訪問管理栄養士の役割」と題し、在宅訪問栄養指導や地域カフェ活動を通じた実践を紹介した。低栄養高齢者への継続的な栄養支援や、多職種・地域資源と連携した支援の重要性が具体例とともに示された。

第3部の特別講演では、東京医科大学循環器内科・心臓リハビリテーションセンターの濱知明先生が、「リハビリテーション栄養の循環器診療との付き合い方」をテーマに講演された。心臓リハビリテーションにおける運動療法と栄養介入の統合、多職種による包括的アプローチの意義が、臨床経験を交えて解説され、グループディスカッションも交えての講演であった。

本研究会終了後のアンケートでは満足度が高い結果をいただき、今後取り上げてほしいテーマの希望もいただいたので、今後さらに発展した研究会にしていきたい。また、研究会終了後の懇親会では多職種ネットワークの重要性が再確認される有意義な機会となった。

